

日本キリスト者医科連盟（JCMA）静岡部会

デンマーク牧場福祉会 共催による 講演会のお知らせ

戦争法案が成立されてしまった今こそ、沖縄の翁長知事が「イデオロギーではなくて、アイデンティティこそが大切！オール沖縄！」と語られますが、沖縄の皆様の平和活動に少しでも連なり、倣う者でありたいと願っています。そのような中で、クリスマスが近づいて参りました。新しい年も日本キリスト者医科連盟（JCMA）静岡部会とデンマーク牧場福祉会の共催で、年に3回程度、講演会を開催いたします。

1月23日、第1回めの会として、家庭を大切にしながら、総合病院・産婦人科の臨床医療に携わり続けている川北かおりさんに講演して頂きます。川北さんに下記のように講演の要旨を記して頂きました。どうぞ皆さんご参集下さい。共に学び合いあいましょう。

日時： 2016年 1月23日（土） 午後1時半より4時頃まで

場所： デンマーク牧場 まきばの家

内容： 講演「赤ちゃんは授かりもの？ それとも作り出すもの？」

川北 かおり 氏 西神戸医療センター産婦人科医長

〔川北さんのプロフィール〕

浜松生まれの浜松育ち。1989年浜松医科大学卒。沖縄県立中部病院、淀川キリスト教病院、パルモア病院などをへて、2008年から現職。

1985年大学在学中にスウェーデン宣教師に出会い、信仰を持つ。「風声寮」（三方原）でもたれていた伊藤邦幸医師の夜の読書会に、医学・看護学生などと共に学ぶ。多忙な研修医時代に教会から離れたが、神さまのあわれみによって、理解ある夫と息子たちに恵まれ、今はインマヌエル神戸教会に細々とつながることができている。ここ数年は、日本キリスト教海外医療協力会や日本キリスト者医科連盟の催しにも、学生時代以来20年ぶりに参加できるようになり感謝。

〔講演の概要〕（ともに考えたいこと）：

不妊治療の中でも、自然に近い方法ではなく、高度な医療技術を用いて妊娠にいたらせるものを特に生殖補助医療と言います。体外受精がその主なものとなります。「試験管ベビー」と言われたルイーズさんが1978年にイギリスで生まれてから、日本では1983年に初めてのベビーが誕生し、今では約27人に1人が体外受精によって生まれる時代となりました。世界一の体外受精大国です。昔なら合併症や高齢のためにあきらめなくてはならなかった女性も妊娠が望めるようになっていきます。

生殖補助医療に特化した いわゆる不妊クリニックで、なんとか妊娠にこぎつけたむずかしい妊婦さん（ハイリスク妊婦）は、その後は総合病院に移り、多くのマンパワーと医療費を投入されながら、ハイリスクの妊娠、出産のための治療を受けています。私は後者に相当する病院で働いていますが、妊娠はしたものの、まさに「命からがらの出産」をすることになった女性、妊娠するところで力尽き、出産や育児を放棄したいと嘆く女性に数多く出会いました。

生殖補助医療が進歩したがゆえに、彼女たちをがんばらせすぎたのではないだろうか、昔から言われるようにやはり「子どもは授かりもの」、人間の技術が越えてはならない一線があるのではないだろうか・・・と思いつつ診療をしています。皆様のご意見も聞かせていただければと思っています。

袋井駅からの送迎希望の方は、12時50分に 袋井駅の南口を出たところに集合下さい。
事前に、こひつじ診療所のスタッフか、武井までご連絡下さい。

JCMA静岡部会長 こひつじ診療所 院長 武井 陽一
まきばの家 こどもの家 施設長 松田 正幸
ディアコニア 施設長 金高 美江子

問い合わせ先 Tel こひつじ診療所：0538-23-0660、まきばの家：0538-23-0770